

ノ如シ、又名切谷ト云ル山半ニ小堂アリ、觀音ノ像ヲ置ク、坐體ニシテ長一尺許、土人夏夜ニハ必ズ相誘テ、コノ堂ニ納涼ス、一夕八彌彼處ニイタル、餘人來ラズ、八彌獨リ假睡ス、少クシテ其像ヲ視ルニ、其長稍ノビテ遂ニ人ノ立ガ如シ、起テ趺坐ヲ離ル、八彌ガ前ニ來テ曰、我汝ガ病患ヲ消セシ、八彌ガ手ヲ執テ、カノ瘤ニヒク、八彌ソノ痛ニ堪ズ、忽驚サム、乃夢ナルヲ知テ見ルニ瘤ナシ、人疑フ、八彌常ニ大士ヲ信ズルニアラズ、亦患ヲ除ノ願アリシニ非ズ、然ニコノ靈驗アルコト不可思議ナリ、カ、レバ昔鬼ニ瘤ヲ取ラレシコト、寓言トモ言ガタシ、

同夢

〔日本靈異記〕中依惡夢至誠心使誦經示奇表得全命緣第廿

大和國添上郡山村里有一長母、姓名未詳也、彼母有女嫁生二子、聳官遣縣主宰、因率妻子至所任國、經歲餘也、但妻之母留土守家、憐爲女夢見惡瑞相、卽驚恐念爲女誦經、而依貧家不得敢之、不勝心念、脫自著衣洗淨、擘以爲奉誦經、然凶夢相復猶重現、母增心恐、復脫著裳淨洒以爲如先誦經、○下

〔日本往生極樂記〕延曆寺座主僧正增命○中夢有梵僧來摩頂曰、汝莫退菩提心、如此數矣、

〔古今著聞集〕神祇仁安元年六月、仁和寺の邊なりける女の夢に、天下の政不法なるによりて、賀茂の大明神、日本國を捨て、他所へわたらせ給べきよし見てけり、同七月上旬、祝久繼が夢にも、同體に見てけり、是によりて泰親時晴を召て占はせければ、實夢のよし各申けり、

〔古今著聞集〕政道忠臣治承四年六月二日、福原の都かへり有けるに、同十三日、帥の大納言隆季卿、

新都にて夢に見侍りけるは、大なる屋のすきたるうちに、我ゐたるひさしのかたに女房あり、ついがきのとに、頻になくこゑ有、あやしみて問に、女房のいふやう、これこそみやこうつりよ、太神宮のうけさせ給はぬ事にて候ぞといひけり、すなはち驚ぬ、又ねたりける夢に同じやうに見てけり、おそれおのゝきて、次日の朝、院に參じて、前大納言邦綱、別當時忠卿などにかたりてけり、

二人同夢

〔今昔物語〕三十一常澄安永於不破關夢見在京妻語第九